

新 防 災 教 育 施 設

基 本 計 画

令和6（2024）年3月

栃木県危機管理防災局

## 目次

<b>I</b>	<b>新防災教育施設のあるべき姿</b> .....	<b>1</b>
1	本施設をとりまく防災教育の在り方と本施設の位置付け.....	1
2	本施設の基本理念及び方向性.....	4
3	本施設のコンセプト及び名称の考え方.....	5
<b>II</b>	<b>新防災教育施設の各機能の考え方</b> .....	<b>6</b>
1	本施設で整備すべき3つの機能.....	6
2	つどい機能の考え方と展開案.....	7
3	まなび機能の考え方.....	8
4	ひろがり機能の考え方と展開案.....	8
<b>III</b>	<b>展示計画</b> .....	<b>10</b>
1	基本方針 .....	10
2	全体ストーリー .....	12
3	ターゲット毎に訴求する内容の方向性.....	13
4	展示ゾーニングの考え方.....	14
5	各ゾーンの構成及び扱うテーマ、学びのポイント.....	15
6	本施設に求められる諸要素.....	20
7	各ゾーンのイメージ.....	21
8	ターゲット種別毎の体験フロー及び滞在時間.....	23
9	展示更新の在り方などの検討.....	27
10	総合防災拠点の立地を生かした学びの在り方.....	27
<b>IV</b>	<b>施設計画</b> .....	<b>28</b>
1	本施設の整備場所.....	28
2	施設に求められる規模と機能と平面計画案の作成.....	29
3	ZEB (Net Zero Energy Building) も含めたライフサイクルコストの考え方.....	31
4	各種関係法令の整理.....	31
<b>V</b>	<b>事業活動の方向性</b> .....	<b>32</b>
1	連携事業の在り方など事業活動の方向性.....	32
2	開館時間、休館日、入場料などの考え方.....	33
<b>VI</b>	<b>施設整備全体の概算事業費とスケジュール</b> .....	<b>35</b>

## I 新防災教育施設のあるべき姿

### 1 本施設をとりまく防災教育の在り方と本施設の位置付け

#### 1-1. 我が国における防災教育の現状

令和5（2023）年現在、阪神・淡路大震災（平成7（1995）年）から四半世紀、東日本大震災（平成23（2011）年）から12年が経過したこともあり災害の記憶が希薄化する中で、あらためて今後の防災を見つめ直す節目に立っています。

近年は気候変動等の影響も受け、豪雨、台風など気象災害が頻発化、激甚化しており、我々は、いかなる災害からも自分自身そして周りの人々の大切な生命を守ることを最優先にした防災を実現していかなければなりません。

また、学校においては、第3次学校安全の推進に関する計画（令和4（2022）年3月25日閣議決定）（以下「第3次学校安全推進計画」という。）の柱の一つに防災教育を据え、自らの生命は自らが守る意識、そのために必要な知識、災害時に率先して避難し、余力があれば周囲の人を助ける主体的な態度を身につけることは極めて重要であり、防災教育は更に一層の充実が図られるべきであるとされています。

#### 1-2. 現在の栃木県防災館の分析

全ての県民が、災害から自らの生命を守ることができるようにするためには、災害時に県民一人ひとりが適切な行動をとることができるようになることが極めて重要となります。その中で、既存の栃木県防災館（以下「既存館」という。）については以下のような課題があり、それらを解決する新たな防災教育施設（以下「本施設」という。）の整備が求められます。

#### ■栃木県防災館の課題

##### 課題1 ストーリー性の欠如

地震・大雨等の災害体験ができるが、災害時への備えや避難行動まで考えさせるストーリー性がありません。

##### 課題2 設備の老朽化

平成4（1992）年度の開館から31年経過し、体験型装置が耐用年数を超過しており故障が頻発しています。

##### 課題3 利用者数の減少傾向

開館当初の利用者数は30,000人～35,000人で推移していたものの、平成29（2017）年度以降は25,000人を割り込んでおり、右肩下がりの利用者数となっています。

##### 課題4 学校団体の利用が少ない

県内の公立小学校及び義務教育学校347校中、令和4（2022）年度に既存館に来館したのは56校（16.1%）のみであり、大多数の小学校に利用されていません。

##### 課題5 防災関係などの活動主体の利用が少ない

令和4（2022）年度の自主防災組織や女性防火クラブといった消防防災に係る団体の利用については16団体のみであり、共助力を育む場としての機能が果たせていません。

### 1-3. 本施設の位置付け

栃木県は地域防災計画（令和5（2023）年1月改定）の中で、県内外における大規模災害時の確かな被災地支援のための機能と地域住民が適切な避難行動等を行えるようにするための平時からの防災にかかる学習・教育機能を兼ね備えた総合的な防災拠点として、広域災害対策活動拠点、広域物資拠点に位置付けられ各種防災機能を有するとともに、県央部に位置し県内全域をカバーできる県総合運動公園を指定しました。

その被災地支援のための機能として掲げられた「備蓄機能」「救援物資集積拠点機能」「応援部隊活動拠点機能」「ヘリの離着陸機能」はすでに整備されており、本施設は「学習・教育機能」として位置付けられ、最後に整備されるものとなります。

また、栃木県では以下のとおり、災害により多様な被害を受けてきたこともあり、本施設においては様々な災害について発生の仕組みや備えなどを体験・学習できることが求められます。

#### ■栃木県でこれまでに発生した主な災害

発生日月	災害種別	災害名	死者数	家屋被害	その他被害等
昭和 22（1947）年 9月	風水害	カスリーン台風	437名	2,249戸	被災者数 214,895名
昭和 24（1949）年 9月	風水害	キティ台風	12名	2,594戸	
昭和 24（1949）年 12月	地震	今市地震	10名	3,284戸	M6.4：最大震度6
昭和 61（1986）年 8月	風水害	茂木水害	6名	137戸	り災者 1,929世帯 7,399名
平成 10（1998）年 8月	風水害	那須水害	7名	95戸	り災者 493世帯 1,779名
平成 15（2003）年 9月	火災	黒磯ブリヂストン工場火災	－	－	5,000名に避難指示
平成 23（2011）年 3月	地震	東日本大震災	4名	2,373戸	最大震度6強（宇都宮、真岡、大田原、高根沢、市貝）
平成 27（2015）年 9月	風水害	関東・東北豪雨	3名	991戸	り災者 2,243世帯 4,127名
令和元（2019）年 10月	風水害	東日本台風	4名	5,306戸	大雨特別警報発表
令和3（2021）年 2月	火災	足利市林野火災	－	－	（足利市両崖山付近） 305世帯に避難指示、約167ha焼失

## 1-4. 防災教育の方向性

防災教育は、内閣府による「防災・減災、国土強靱化新時代実現のための提言（令和3（2021）年5月25日）」において、災害対応技術を身につける教育と狭く捉えるのではなく、地域の大人たちが子どもに背中を見せながら、地域の将来を担う人材を育む大きなプロジェクトであり、その理念を「10年後に地域を支える大人をつくり、20年後には地域の防災文化をつくる礎」としています。

提言に基づき、防災教育は「第3次学校安全推進計画」の柱に位置付けられ、今後は「防災教育新時代」として実践的、効果的な防災教育を全国展開していくことが求められています。

なお、栃木県では上記第3次学校安全推進計画に基づいた防災教育について、各学校で取り組むことを推進していることから、本施設においてもその方向性を踏まえた整備、活動を行っていくものとしています。

## ■今後の防災教育の深度化の考え方イメージ



提言では、防災教育の効果として「全ての子どもたちが災害時に、自らそして周囲の人の生命を守ることができるようになることは防災教育の最も重要な効果である」としています。さらに、人間力や生きる力といった非認知能力の向上に加え、郷土愛や地域を担う意識などの育成、地域と学校等が連携した防災教育に取り組むことを通じて、地域の大人が心を動かされ主体的に生命を守る防災意識を涵養するといった幅広い効果も挙げられています。

また、防災教育を単に生命を守る技術の教育と狭く捉えるのではなく、「防災を通じた教育」として広く捉え、人間の育成にとって重要な要素を教えやすい代表的な教育分野として位置付けるべきであるとしています。

## 2 本施設の基本理念及び方向性

### 2-1. 本施設の基本理念

本施設の基本理念は

#### 防災教育を通じた「助け合う未来のとちぎ人づくり」のための拠点

とし、防災教育を学校や地域などへ展開し、さらに将来的には郷土愛に満ちた助け合うとちぎ人が生まれ、防災による地域コミュニティの活性化も目指します。そのために、以下のように防災教育の展開について方針を定めることとします。

#### ■防災教育の展開についての3つの方針

##### 方針1 他人を思いやる態度を育てる

災害における自らを守る行動=自助だけでなく、周りの大切な人たちを守りたいという考え=共助への想いを学ぶことで他者への思いやりを育てます。

##### 方針2 地域への想いを深める

地域の人々と連携した防災活動や地域の自然の恵みと災いを学ぶこと等を通じ、郷土愛や地域の担い手としての意識を醸成し、未来の人づくりに寄与します。

##### 方針3 大人と子どもが共に育つ

未来の担い手である子どもだけでなく大人も感じ、学ぶことのできるような教育とすることで防災交流人口の拡大による地域活性化のきっかけを創出します。

### 2-2. 本施設の方向性

基本理念である「助け合う未来のとちぎ人」を育成し、災害から大切な命を守れるようにするため、先進技術などの効果的な活用により災害を自分事化（体感）することで、防災の学びを動機付けます。これにより災害のメカニズム、体験、災害への備え、自助、共助などといった防災に関する一連の流れが、ストーリー性を持って学べる、実践につながるような施設を目指します。

さらに、防災士会などの防災関連団体、自主防災組織や消防団などの地域、大学などの高等教育機関と連携しながら、これからの栃木県の未来を担う子どもを中心に、広く県内全域へ防災教育を本施設が提供することで、防災をきっかけに人々がつながり合える場とします。

#### ■未来のとちぎ人育成に向けた本施設の方向性イメージ



### 3 本施設のコンセプト及び名称の考え方

#### 3-1. 本施設のコンセプト

基本理念及び方向性を実現するためのコンセプトとして

**いつ来ても、何度でも学ぶことができる！**

**みんなでつどい、まなび、ひろがることで「助け合うとちぎ人」をつくる場！**

を掲げ、整備することとします。

このコンセプトの具現化により、総合運動公園という立地も活かして、幅広い層の県民にアプローチし、これまでにない「助け合う人づくりの拠点」としての新たな防災教育施設を実現することを目指すものとします。

#### 3-2. 本施設の名称

本施設においては、コンセプトを表現するとともに、広く県民に愛され、県内外への話題性の創出につながるような施設名称又は愛称等をつけることが望ましいと考えられます。今後、県民からの公募やネーミングライツなど決定の方法も含め、検討していくものとします。

## II 新防災教育施設の各機能の考え方

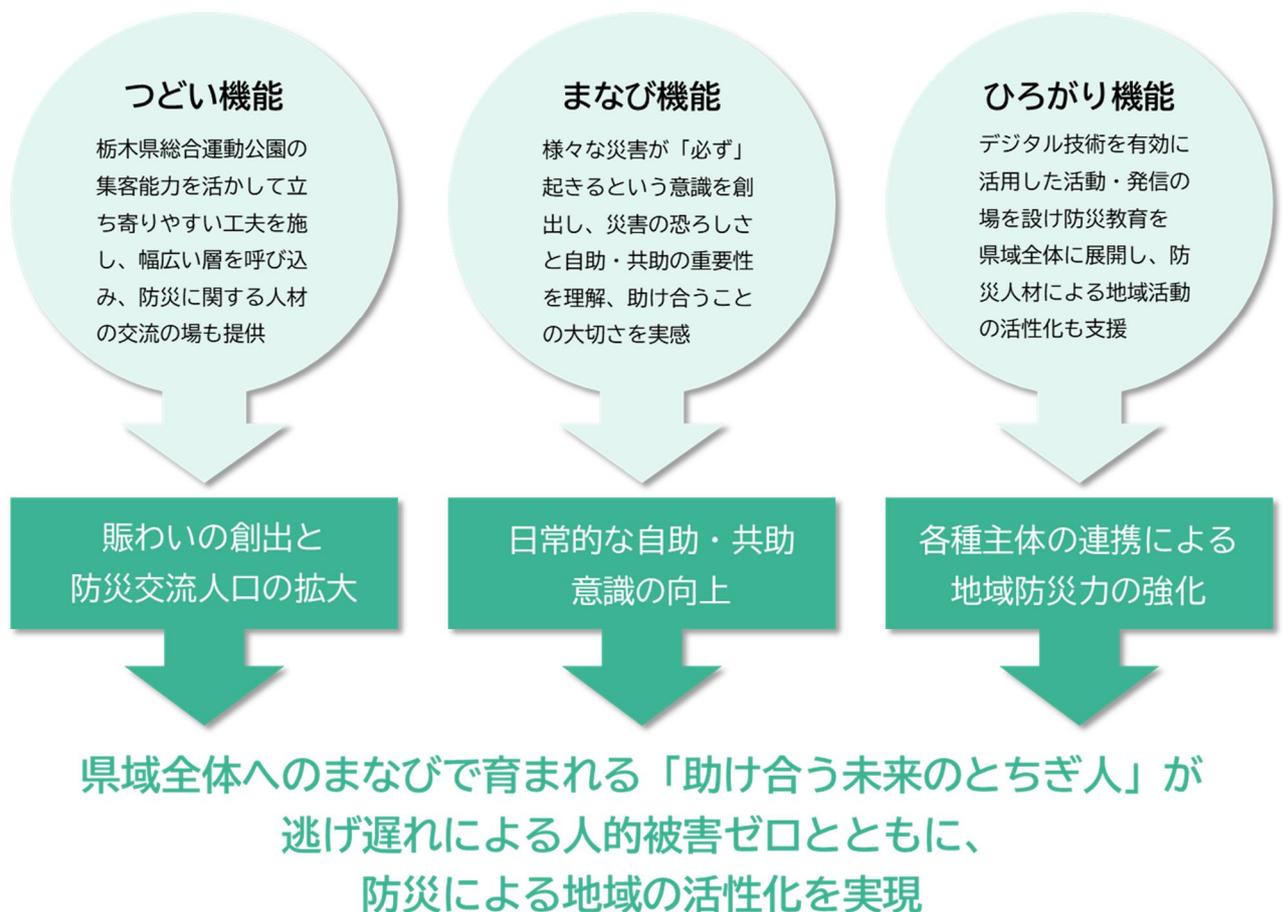
### 1 本施設で整備すべき3つの機能

施設コンセプトを達成するため、

- ① 多くの県民が利用し、防災に関する人材の交流も創出するための「つどい機能」
- ② VR等の活用などによるストーリー性とターゲットごとに変化性のある「まなび機能」
- ③ 来訪が難しい県民への発信や多様な主体と連携する「ひろがり機能」

を整備します。これにより、既存館にも来訪していた県民に加え公園利用者や近隣住民、さらに多様な活動主体や団体等の利用や連携による防災意識の向上と地域活性化を目指します。

#### ■ 3つの機能とその効果イメージ



## 2 つどい機能の考え方と展開案

### 2-1. つどい機能の考え方

本施設を目的とせず来訪した公園利用者や近隣住民などが何気なく立ち寄りたくなる工夫を施します。これにより多くの人々がいつでも本施設を訪れることで、日常的には防災を意識しない県民がいつでも「まなび機能」に参加する、すなわち防災教育に触れるきっかけを創出することを目指します。そのために来館を促すような多様な事業を行うことで、多様な利用者同士による防災人材の交流拡大につなげます。

また、防災に関する人材が本施設に集まり、積極的な交流を図ることで、県内の防災人材のネットワーク構築の拠点としていきます。

### 2-2. つどい機能の展開案

つどい機能については、公園利用者が何気なく立ち寄り防災による交流を促すような様々な活動を行う「①広場機能」や、県内の防災に関する人材が集まるような「②防災人材ハブ機能」を以下のように展開することを想定しています。

#### ■つどい機能の展開イメージ

##### 展開① 広場機能

日常的な憩いの場にもなる開かれた広場空間を設け、そこでワークショップやイベントなどの活動、カフェやショップの設置など人が立ち寄る工夫を実施することで、幅広い年代の地域の人々や県民などの来館者がつどいことによる賑わい創出と、それによる防災人材の交流拡大につなげていきます。

##### 展開② 防災人材ハブ機能

県内の防災に関する技能や知識のある防災士、消防団などの地域で防災に関する活動をしている人々、高等教育機関の研究者、防災に興味のある教員などがつどい、連携するための研修室等を設け、防災人材のネットワークを強化するとともに活躍できる防災人材を増やし、地域等のニーズと防災人材をマッチングさせていくハブ機能化を目指します。

### 3 まなび機能の考え方

防災教育の中心であるまなび機能では、VR等の先進技術の効果的な活用などにより、栃木県の災害の多様性、その災害による大切な人を失う悲しさ等を直感できる導入展示で、災害を自分事化することから展示体験をはじめることによって防災を学ぶ動機付けをし、「いつも」の日常が「必ず」やってくる災害によって壊されてしまう恐ろしさや、そのための備えを学習できるような実践的な防災力を高めるストーリーを構築します。

また、各種災害の学びについても体験装置による単発的な体験にするのではなく、災害の特徴や発生後にとるべき行動などの学びを付加した個別のストーリーをつくることで、「必ずやってくる災害への対応」を実現するための防災教育とします。

さらに、助け合う未来のとちぎ人づくりに向け、デジタル技術を活用し、例えば年代が上がるにつれて自助から共助の学びを多くするなど、年代等に応じて学習する内容を変化させるような工夫も施していきます。

### 4 ひろがり機能の考え方と展開案

#### 4-1. ひろがり機能の考え方

本施設から県全域に防災教育や情報を発信可能な「ひろがり機能」を付与し、本施設への来訪が難しい県民への防災教育による県全域への学びの波及を実現します。さらに防災士会などの防災関連団体、自主防災組織や消防団、女性防火クラブなどの地域、県内の高等教育機関、学校等の多様な主体がそれぞれ活動・発信する場とするだけでなく、こういった活動等から新たな出会い（つどい）が交流（ひろがり）に発展することで防災人材の交流を拡大し、複数の主体が連携する防災による地域の活性化を実現します。

#### 4-2. ひろがり機能の展開案

ひろがり機能については、多様な主体と連携した活動を県内学校等へ発信する「①県内主体へのひろがり」を実現するため、オンラインでの情報発信などのデジタルを活用した機能を検討しています。

さらに、主体同士の連携で防災による地域活性化を実現する「②主体同士のつながり」も可能な活動の場としても展開します。

これらの本施設からの幅広い学びの発信や、連携の構築などの活動に加え、本施設から各地域を訪問する「③VR防災体験車の活用」を想定しています。

##### ■ひろがり機能の展開イメージ

###### 展開① 県内主体へのひろがり

- ・デジタル設備を整備し、県内全域に防災教育をオンライン上で発信できるような「学びの発信拠点機能」とします。
- ・防災士会や消防団、高等教育機関など防災に関する県内の多様な主体も活動可能な場とすることで、防災を通じた地域活性化の拠点機能化を図ります。
- ・防災を学ぶ人々もフリーに活動できるスペースも兼ね、多様な属性の人々の交流を促します。

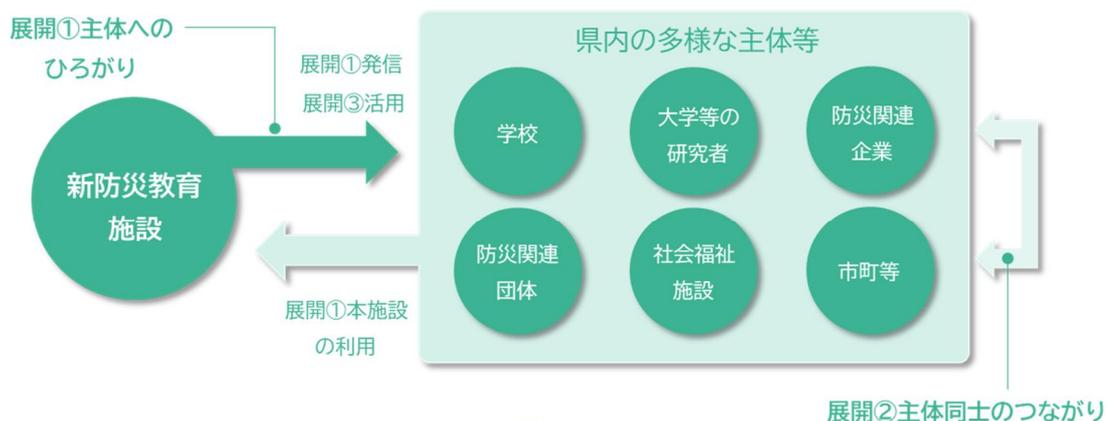
###### 展開② 主体同士のつながり

- ・県内の主体が共に活動する場となることで、さらに県内における防災を通じた地域の活性化にもつながる「ここならではの」活動を具現化する可能性をつくります。
- ・多様な主体が同時に活動できるようにすることで、利用する主体同士の交流創出も図ります。

###### 展開③ VR防災体験車の活用

- ・本年度整備予定の移動展示車両「VR防災体験車」を活用して、広く県域全体への防災教育を展開していきます。
- ・VR防災体験車が本施設に置かれている時は、施設来訪者が希望に応じて、VR防災体験車を体験できるよう工夫します。

##### ■ひろがり機能による本施設の活動イメージ



### Ⅲ 展示計画

#### 1 基本方針

##### 1-1. 展示体験の考え方

「Ⅱ 3まなび機能の考え方」のとおり、本施設においては栃木県内外で発生、遭遇する多様な災害についての学びを提供することとします。その際、専用の装置を設けて高い体験性を提供すべき災害なのか、又は更新性を考慮し専用装置とすべきではない災害なのか、という観点から展示手法を以下のとおり検討しました。

なお、専用装置以外で紹介する災害については広場空間などで紹介することで、いつでもだれでもが気軽に立ち寄り、学ぶことができるようにします。

#### ■災害種別による展示手法の考え方（栃木県地域防災計画より災害種別を分類）

災害種別	展示手法	考え方
地震	専用装置	起震装置が実現する高い再現性による体験で学びを高めるため
火災（初期消火）	専用装置	日常では体験出来ない模擬的消火体験が実践的となるため
火災（煙避難）	専用装置	煙避難に加え、煙の特性の見える化が学びとなるため
風水害	専用装置	強烈な風（雨）の体験から、恐ろしさを感じられるため
冠水	専用装置	歩きづらさなどは体験を伴うことで実感できるため
雪害	グラフィックなど	体験装置化が困難であり、特徴や備えの理解が重要であるため
津波	グラフィックなど	体験装置化が困難であり、特徴や備えの理解が重要であるため
土砂災害	グラフィックなど	体験装置化が困難なことに加え、情報更新などが想定されるため
雷	グラフィックなど	体験装置化が困難であり、特徴や備えの理解が重要であるため
火山	グラフィックなど	体験装置化が困難であり、特徴や備えの理解が重要であるため
原子力	グラフィックなど	体験装置化が困難なことに加え、情報更新などが想定されるため
気候変動	グラフィックなど	体験装置化が困難なことに加え、情報更新などが想定されるため
避難所生活	グラフィックなど	体験装置化が困難なことに加え、情報更新などが想定されるため
その他	グラフィックなど	その他状況に応じて情報更新を行うものとする。

## 1-2. 体験装置の考え方

各災害体験については、様々なバリエーション案が想定されるため、学習効果や先進性・話題性、更新性・メンテナンス性、運用性などの観点から、本施設において最適なものを検討しました。特に体験装置は「体験するだけ」になるリスクもあるため、映像装置と連動し来館者属性に応じた展開とするなど、体験の前後で学習効果を高める工夫にも配慮していきます。

また、各種装置においては車いす利用者などへの提供についても考慮し、展示設計において体験装置が利用可能な利用者層についても検討します。

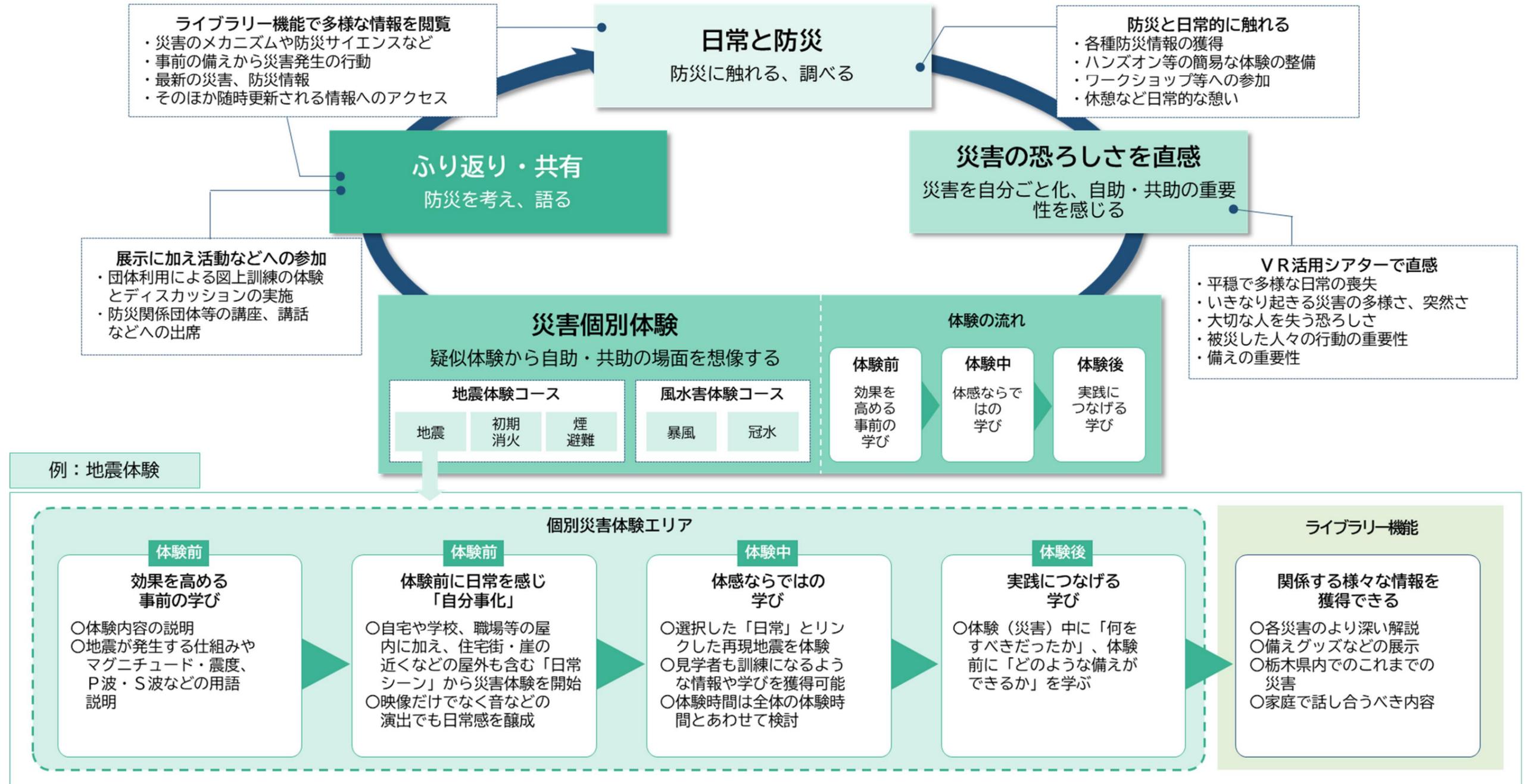
体験装置の種類	概要	装置の特徴
VRシアター	円筒型+床面投影	複数台のプロジェクタを活用した没入感のある映像等（バーチャルリアリティ）を活用し、臨場感や体感性を高め、災害を自分事化
地震体験	起震装置（過去&未来の地震の再現可）+複数面投影による没入映像	過去の実際の地震の揺れが再現可能（今後発生する地震も再現可能）であり、体験する場所や時間帯も、壁面映像により変更可能
初期消火体験	赤外線消火器装置	赤外線を用いたセンサー装置（実際の消火器にセンサーがついたもの）を、火事の映像に向けることで、初期消火を模擬体験可能
煙避難体験	煙迷路体験+煙の様子の見える化	体験者は煙の迷路を進むことで避難に必要なことを学習、見学者（待機者）は、ガラス越し（迷路の一部）に中性帯を見学可能
風水害体験	送風装置による風体験+映像による雨体験	送風装置で実際に風を発生させ、風速を変化させながら風を体験するとともに、大雨については、その状況等を壁面映像等で表現
冠水体験	ボールプールを使った冠水歩行体験+車内の水圧体験	冠水時の歩きづらさをボールプールや壁面映像を活用して体験するとともに、冠水時の車内の水圧によるドアの開けづらさを体験

2 全体ストーリー

「Ⅱ 3まなび機能の考え方」に記載のとおり、本施設の展示機能=まなび機能では災害によって日常が壊されてしまうことや、そのために必要な備えをまなべる実践的なストーリーとします。

そのために単発的な災害体験を繰り返すのではなく個々の災害について災害や備えへの理解、学びを深めながら、体験全体が徐々に自助・共助の意識を高める以下のようなストーリー構成とし、「助け合う未来のとちぎ人」を生み出す拠点づくりを目指します。なお個々の体験内容や学ぶべき内容は本計画でも検討しその結果を後に記しますが、今後も手法を含めて最適な内容の検討を続けます。

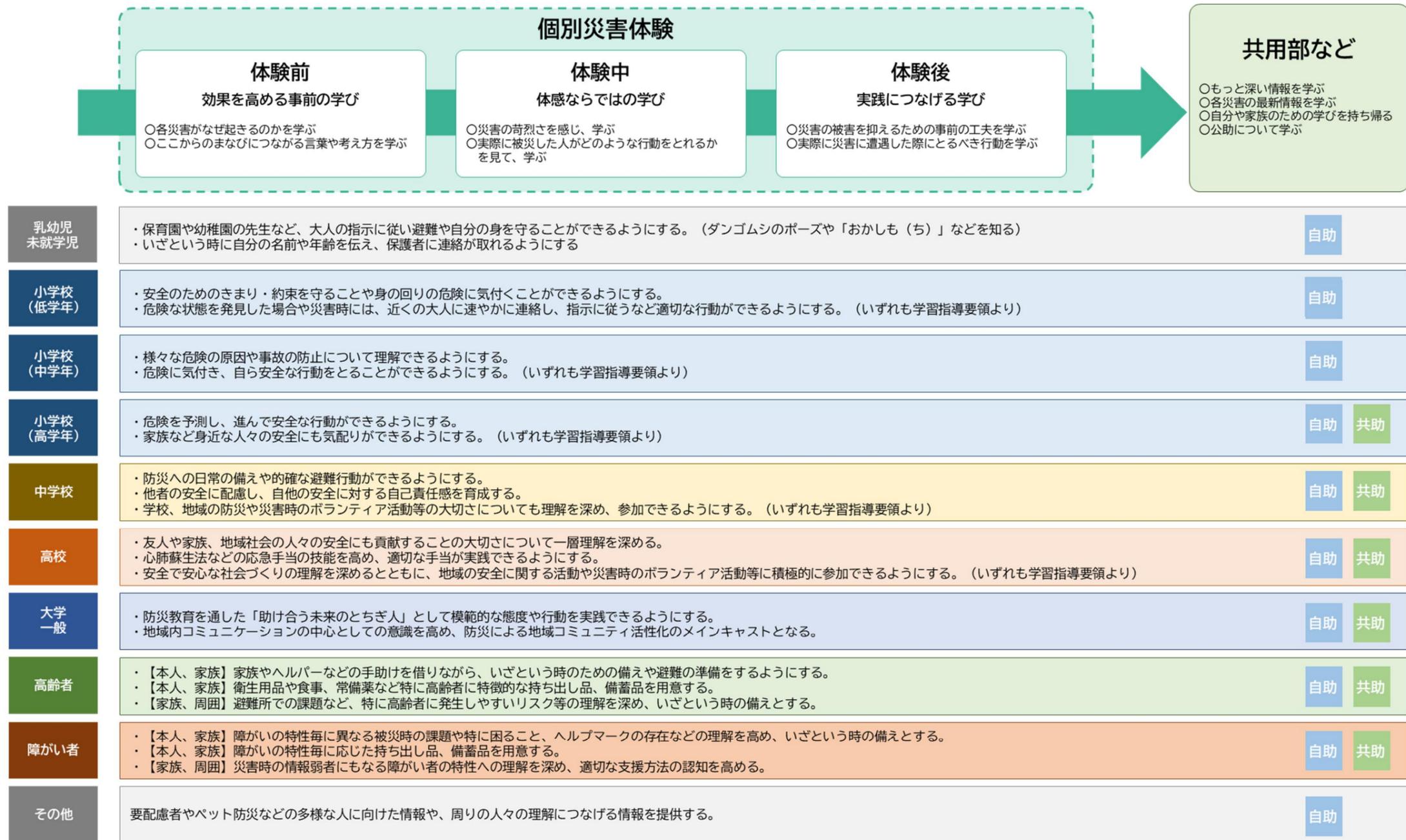
■まなび機能の体験ストーリー構成イメージ



3 ターゲット毎に訴求する内容の方向性

本施設には多様な来館者層が想定され、それぞれの属性に応じた情報を学ぶことで災害や防災を自分事化することが促せます。特にコンセプトの「いつ来ても、何度でも学ぶことができる」を実現するために、年代毎のステージに応じて学ぶ内容を明確にする必要があります。そのうち提供する内容への影響が大きい要素である「自助・共助のそれぞれを学ぶべきなのか」、「まずは自身の身を守る自助のみ学べばよいのか」について以下のように整理しました。

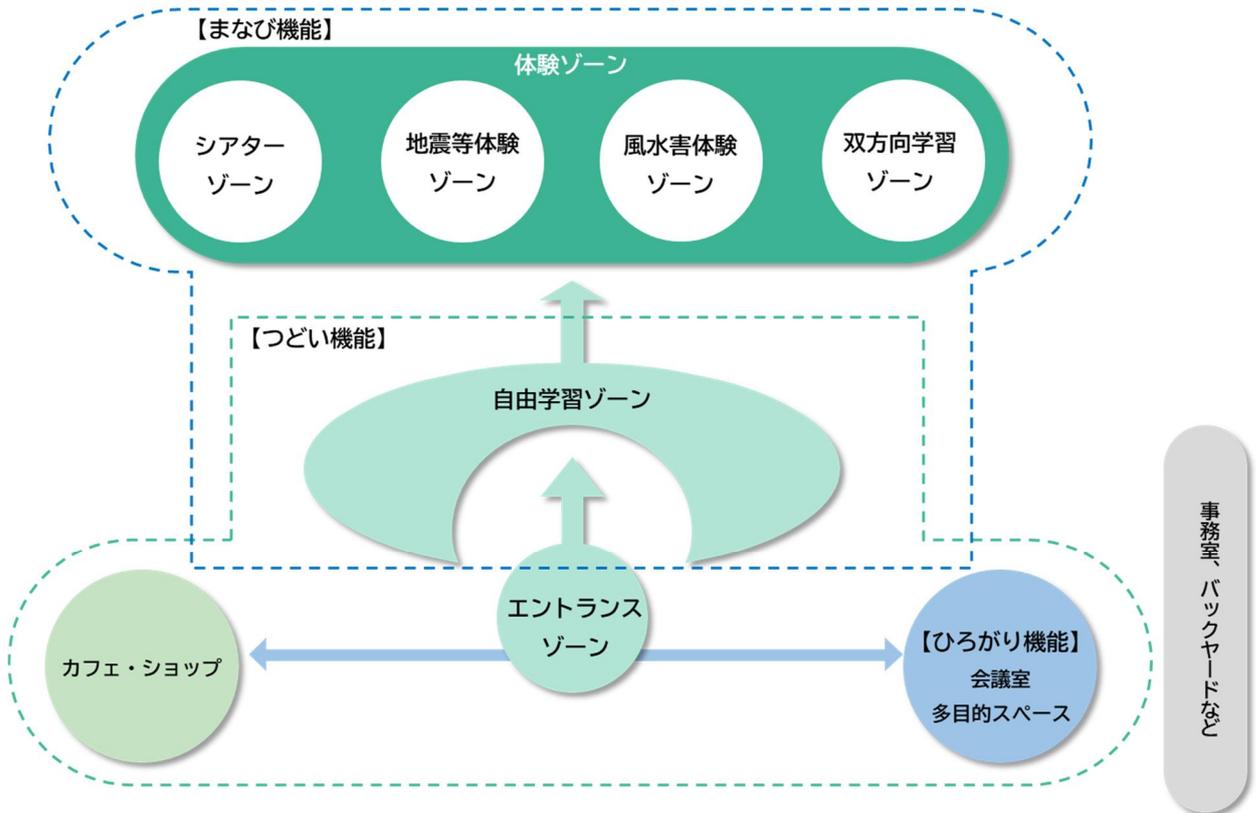
■年代に応じた学びのポイント



#### 4 展示ゾーニングの考え方

全体ストーリーを具現化するためにゾーン毎のつながりなどを以下のようにゾーニング案を検討しました。具体的なゾーニングは建築設計・展示設計における平面計画の策定の中で行うものとし、今回は案としての作成になります。

##### ■まなび機能を中心としたゾーニング案



5 各ゾーンの構成及び扱うテーマ、学びのポイント

展示構成においてはゾーン毎で想定される学びのテーマや特に重要なポイントなどを検討し、以下のように整理しました。なお本構成は案であり、今後の展示設計・展示制作で詳細を検討していくものとします。

■展示構成案

【自由学習ゾーン】

ゾーン	項目	手法	学びのテーマやポイント案
いつもコア (エントランス)	災害なぜなにハンズオン	ハンズオン	液化化や土石流などの各種災害テーマが直感的にわかる
	ハザードマップ	いつでも学び展示	各種災害におけるハザードマップを紙媒体などで閲覧可能
	栃木で起こった災害	いつでも学び展示	栃木で実際起こった災害をそれぞれ紹介する
	災害・防災関連書籍、パンフレット	いつでも学び展示	様々な災害や防災に係る書籍やパンフレットなどをフリーにくつろぎながら読める
	施設活動成果	いつでも学び展示	ワークワークショップなどでつくられた成果品を展示、今後の参加を促進
	いつでも体感AR（避難所生活など）	いつでも体験展示	日常的な立ち寄りでも体験可能なARなどの体験アイテムも整備し、日常的な防災の学びを実現
いつも備える ライブラリー	災害サイエンス	グラフィック・映像	災害発生の理由や様々な用語などのうち、災害体験より深めの情報を解説
	いろいろな災害を学ぶ		雷や雪害など、特に体験装置のない災害についての知識や備えを紹介
	雪害	グラフィック	いつでも学ぶことのできる静的な展示で情報提供
	津波	グラフィック	いつでも学ぶことのできる静的な展示で情報提供
	土砂災害	グラフィック	いつでも学ぶことのできる静的な展示で情報提供
	雷	グラフィック、映像など	仕組みなどを分かりやすく映像も用いて解説
	火山	グラフィック	いつでも学ぶことのできる静的な展示で情報提供
	原子力	グラフィック、映像など	最新の状況や考え方を更新しながら提供可能
	気候変動	グラフィック、映像など	最新の状況や考え方を更新しながら提供可能
	避難所生活	グラフィック、映像など	最新の状況や考え方を更新しながら提供可能
	その他	サイネージなど	その他、様々な内容を来館者毎の興味、関心などに応じて選択して学べるよう工夫
	災害、その時なにをする	グラフィック・コンテンツ	災害に遭遇したその瞬間にとるべき行動をグラフィックやクイズコンテンツなどで解説
	防災に役立つ事前の備え	実物・グラフィック	備蓄用品や備蓄燃料など災害前に備えることのできる内容を実物やグラフィックで紹介
	災害発生からの72時間	実物・グラフィック・映像	災害発生から起こる二次災害などを時系列で紹介するタイムライン展示
	非常持ち出し袋をつくろう	実物・グラフィック	様々な用品を実際に詰めることで必要かつ実際に持ち出し可能な内容を体験
	家族と話そう	持ち帰り展示・グラフィック	避難場所や近所の危険箇所など家族で話すべき内容をカードなど持ち帰り可能な形式で提供
いつでもボウサイネージ	サイネージ	「町や学校、職場の防災設備」「国・県における公助」「わたしの住む町の災害や防災」「最新防災ニュース」「障がい者の避難」「多様な人たちへの配慮」等の様々なテーマを、更新性の高いサイネージで展開	
子ども向けコンテンツ	映像	更新性と若年層の恐怖感低減に配慮したサブコンテンツも整備	

【体験ゾーン：シアターゾーン】

ゾーン	項目	手法	学びのテーマやポイント案
イマーシブ VRシアター	イマーシブ災害体感シアター	没入体感VR映像	栃木県で起こりうる多様な災害を一気に同時体感できる、360度包まれたような没入体感映像=VRによるシアターで体験全体の学びを向上

【体験ゾーン：地震等体験ゾーン】

ゾーン	項目	手法	学びのテーマやポイント案
地震体験 ゾーン	体験前の学び (各災害がなぜ起きるのかを学ぶ)	グラフィック・映像	【地震はどのようにして起きるのかを知ろう】 地球内部の構造（地殻とマントル）、海溝型・直下型地震のしくみの違い、日本周辺で地震の起こる場所、その後起きる津波
	体験前の学び (ここからの学びにつながる言葉や考え方を学ぶ)	グラフィック	【よく耳にする地震に関する言葉を知ろう】 地震波について（P波・S波）、海のプレート・陸のプレート、マグニチュードと震度、活断層、南海トラフ、プレートテクトニクス
	体験中の学び	専用装置+映像	【実際に起きた様々な地震を体験しよう】 実際の地震のその瞬間にいかにもできないか（事前の備えがいかに重要か）
	見学中の学び	見学+グラフィック・映像	【実際に地震が起きたときの様子を見てみよう】 被災の瞬間にとるべき「正しい行動」の困難さ
	体験後の学び (災害の被害を抑えるための事前の工夫を学ぶ)	グラフィック・映像	【自分が助かる対策を学ぼう】 家具類の転倒防止、近所の危険個所の確認、非常用品の備え、避難場所などの事前の話し合い、ブロック塀の倒壊を防ぐ対策、ガラスの飛散対策 【人を助ける対策を学ぼう】 地域の危険個所や周辺の学校・高齢者施設などの確認、自主防災組織への参加など
	体験後の学び (実際に災害に遭遇した際にとるべき行動を学ぶ)		【自分が助かる行動を学ぼう】 ○その時：まずは身の安全、シェイクアウト（ドロップ・カバー・ホールドオン）、ダンゴムシのポーズ ○直後：火の元確認、避難経路の確保 ○その後：電気やガスの確認、正しい情報の獲得と避難 【人を助ける行動を学ぼう】 ○その後：近隣の安否確認、協力し合った救護
	次の体験へのブリッジ		安全が確保できたら初期消火を行おう！

ゾーン	項目	手法	学びのテーマやポイント案
初期消火 ゾーン	体験前の学び (各災害がなぜ起きるのかを学ぶ)	グラフィック・映像	【出火はどのようにして起きるのかを知ろう】 主な出火原因、火災の種類、燃焼の原理 【初期消火はどのようにすべきかを知ろう】 出火時の消火方法、消火薬剤による消火器の分類
	体験前の学び (ここからの学びにつながる言葉や考え方を学ぶ)	グラフィック	【よく耳にする火災・初期消火に関する言葉を知ろう】 収れん火災、トラッキング現象、自動火災報知設備
	体験中の学び	専用装置+映像	【実際に出火から初期消火の流れを体験しよう】 火災の発見から消火(避難)までの流れとそれぞれのポイントを体験 (消火器の使い方を知らないとうなるか)
	見学中の学び	見学+グラフィック・映像	【実際に初期消火している様子を見てみよう】 いざという時のために消火器の使い方を知っていることの重要性
	体験後の学び (災害の被害を抑えるための事前の工夫を学ぶ)	グラフィック・映像	【自分が助かる対策を学ぼう】 自宅での住宅用消火器の設置場所と避難経路の確認 【人を助ける対策を学ぼう】 消火栓などの自宅以外、消火器以外の設備の使い方 自宅周辺も含めた放火されない環境づくり、自主防災組織への参加など
	体験後の学び (実際に災害に遭遇した際にとるべき行動を学ぶ)		【自分が助かる行動を学ぼう】 ○その時：大きな声で119番 ○直後：可能であれば初期消火 ○その後：すみやかな避難 【人を助ける行動を学ぼう】 ○その後：協力し合った消火
	次の体験へのブリッジ		無理な消火はせず、速やかに避難しよう！
煙避難 ゾーン	体験前の学び (各災害がなぜ起きるのかを学ぶ)	グラフィック・映像	【煙にはどのような特性があるかを知ろう】 煙が人体に及ぼす危険性、煙の動き方、煙による視界の現象、 煙の中での正しい避難行動に関する知識
	体験前の学び (ここからの学びにつながる言葉や考え方を学ぶ)	グラフィック	【よく耳にする煙に関する言葉を知ろう】 中性帯(ニュートラル・プレーン)
	体験中の学び	専用装置+映像	【実際に煙避難を体験しよう】 煙に巻かれてしまった場合の見えづらさ、行動しづらさを体感
	見学中の学び	見学+グラフィック・映像	【実際の煙の動きなどの様子を見てみよう】 煙の特性や動き方などを実際に見てみることで理解を深める
	体験後の学び (災害の被害を抑えるための事前の工夫を学ぶ)	グラフィック・映像	【自分が助かる対策を学ぼう】 火災発生時の正しい逃げ方、建物外や下階への避難、煙を吸わない工夫、 危険な行動(エレベーターの使用、逃げた後に再び戻る) 【人を助ける対策を学ぼう】 日常的な階段の場所や誘導灯、避難器具の位置を確認し避難の誘導などにつなげる 地下街や宿泊施設、商業施設などの自宅や職場以外での避難への意識
	体験後の学び (実際に災害に遭遇した際にとるべき行動を学ぶ)		【自分が助かる行動を学ぼう】 避難の方法：姿勢を低くする、ハンカチなどで口をふさぐ、「誘導灯」を探す、避難扉を閉め煙の侵入を防ぐ
コースの総括		地震・火災などの際、まずは自分の身を守る「自助」をこころがけ、その後周りとは協力し助け合う「共助」をしていきましょう！	

【体験ゾーン：風水害体験ゾーン】

ゾーン	項目	手法	学びのテーマやポイント案
風水害 ゾーン	体験前の学び (各災害がなぜ起きるのかを学ぶ)	グラフィック・映像	【風水害にはどのような危険性があるかを知ろう】 水害の分類、台風の仕組み、これまでに起きた大きな水害、雷の危険性と発生の仕方
	体験前の学び (ここからの学びにつながる言葉や考え方を学ぶ)	グラフィック	【よく耳にする風水害に関する言葉を知ろう】 線状降水帯、局地的大雨（ゲリラ豪雨）、外水氾濫・内水氾濫、ダウンバースト
	体験中の学び	専用装置+映像	【実際に風水害を体験しよう】 天気予報で聞く様々な表現の実際の強さを体験・体感
	見学中の学び	見学+グラフィック・映像	【実際の風水害時の様子を見てみよう】 いかに風水害の中では何もできないか、被害を回避することの重要性
	体験後の学び (災害の被害を抑えるための事前の工夫を学ぶ)	グラフィック・映像	【自分が助かる対策を学ぼう】 天気予報や気象状況への意識、避難グッズの事前準備、避難経路・避難場所の把握、災害に備えた家屋の点検 【人を助ける対策を学ぼう】 獲得した防災情報の共有など
	体験後の学び (実際に災害に遭遇した際にとるべき行動を学ぶ)		【自分が助かる行動を学ぼう】 ○その時：まずは風水害時には外出を控えるなどの行動、屋外で飛来する危険物などへの意識 ○直後：警戒警報・避難命令などには速やかに従う ○その後：持ち出す荷物はなるべく少なく、身軽に動けることを優先 【人を助ける行動を学ぼう】 ○その後：避難する時はみんなと一緒に、お年寄りや子供を優先し落ちついて行動
	次の体験へのブリッジ		まずは屋外に出ないこと、そしてアンダーパスなどの被害を避けることを心がけましょう。それではもし屋外にいた場合などの冠水の危険性を体験してみましょう！

ゾーン	項目	手法	学びのテーマやポイント案
冠水 ゾーン	体験前の学び (各災害がなぜ起きるのかを学ぶ)	グラフィック・映像	【冠水を避けるための考え方を知ろう】 避難経路と避難方法、警戒レベル相当情報と避難のタイミング
	体験前の学び (ここからの学びにつながる言葉や考え方を学ぶ)	グラフィック	【よく耳にする冠水に関する言葉を知ろう】 アンダーパス、ハザードマップ、災害の相転移
	体験中の学び	専用装置+映像	【実際に冠水を体験しよう】 冠水時の歩きづらさ、足元の見えづらさを体感
	見学中の学び	見学+グラフィック・映像	【冠水時の様子を見てみよう】 歩きづらそうにしている様子などから、冠水時の外出等のリスクを感じる
	体験後の学び (災害の被害を抑えるための事前の工夫を学ぶ)	グラフィック・映像	【自分が助かる対策を学ぼう】 雨水ます上や浄化槽などへの配慮、ハザードマップでの危険な区域・避難場所のチェック、 トイレ・風呂場・洗濯機の排水口からの逆流対策、家財道具の上層階への移動
	体験後の学び (実際に災害に遭遇した際にとるべき行動を学ぶ)		【自分が助かる行動を学ぼう】 ゴミ袋を使った簡易水のう、簡易止水板で家屋へ流入する水をせき止めるなどの対応 【人を助ける行動を学ぼう】 冠水被害にあわないような声かけの重要性
	コースの総括		強い雨や風の際、まずは外出などを避けることで自分の身を守る「自助」をこころがけ、その後周り と協力し助け合う「共助」をしていきましょう！

【体験ゾーン：双方向学習ゾーン】

ゾーン	項目	手法	学びのテーマやポイント案
双方向学習 ゾーン	体験中の学び (日常の備え、各災害が起きたときの二次災害を防ぐ行動や身近な設備の復旧方法などを学ぶ)	双方向体験	【日常の備え】 災害用伝言ダイヤル（伝言板）の使い方、避難場所の確認、備蓄品の確認、非常持ち出し袋の準備、ローリングストック、ハザードマップの確認、家具転倒の防止や配置、延焼を防ぐための配置、割れたガラスによるけがを防ぐための対策、119番通報で聞かれる内容、応急救護 など 【二次災害を防ぐ行動】 安全を確認した後の火元の確認、浸水を防ぐための土のう、がけ崩れの予兆を知る、熱中症への備え、エコノミークラス症候群の予防としての運動の必要性、避難所生活のための準備、アレルギーや宗教など様々な特性に応じた準備 など 【身近な設備の復旧方法など】 マイコンメーターの復帰、通電火災を防ぐ電気の復旧（アンペアブレーカー、漏電遮断器、安全ブレーカーの順番）、浸水した家の排水と清掃、簡易トイレのつくり方 など

## 6 本施設に求められる諸要素

本施設の諸要素としては、多様な利用者に対しての学びに係る情報提供やつどい、ひろがりなどに必要となる全体的な考え方が想定されます。あわせて専用装置などの設置に係る個々の諸室に求められる建築、設備などのハード的な条件も含め、以下のように整理します。

### ■本施設全体の考え方

#### (施設整備関連)

- ・日常的な防災教育を実現するために、施設エントランス付近に自由に滞留可能な空間を整備します。
- ・団体利用者と個人利用者などの、それぞれが同時に体験可能な諸室配置及び動線計画とします。
- ・来館を促すような公園内外への高い訴求力と、入りやすいアプローチを両立します。
- ・全ての方が快適かつ安心して体験できるよう、ユニバーサルデザインに配慮します。

#### (展示・什器関連)

- ・将来的なリニューアルや展示内容の容易な更新を考慮した、展示方法を検討します。
- ・専用装置の設置やメンテナンス、更新に必要なバックヤードなど、管理者動線も効果的なものとします。
- ・照明についてはLED、プロジェクターはレーザー式を採用するなど、メンテナンスに配慮した器具・機器を設計段階で選定します。

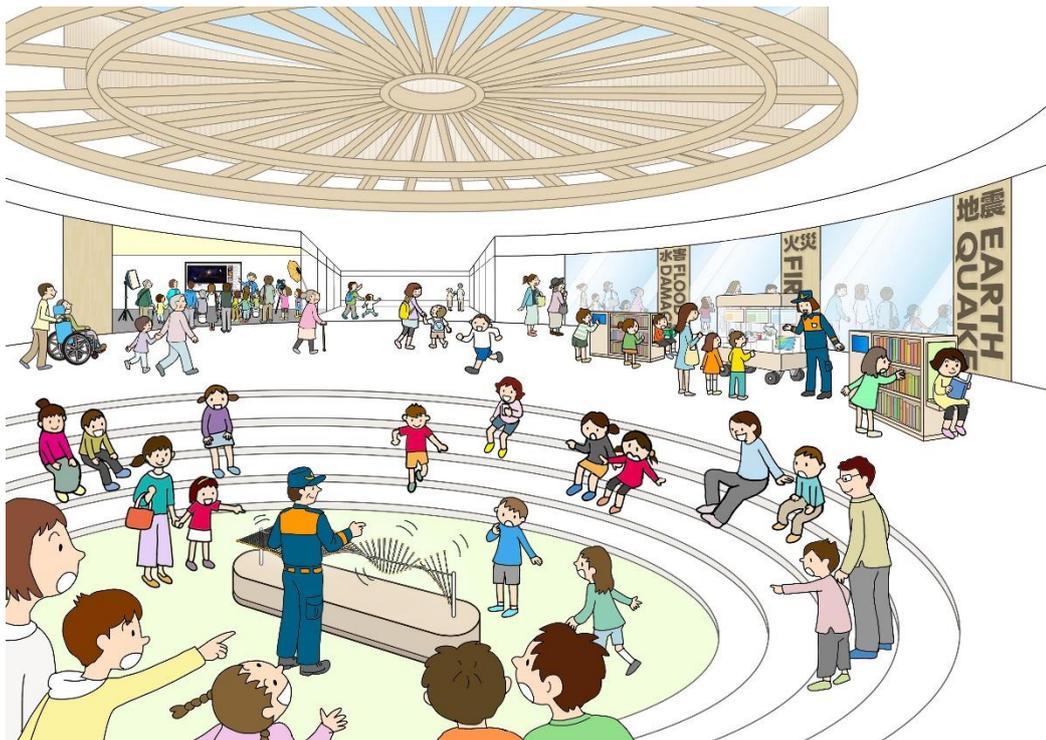
#### (運用)

- ・授乳室やキッズスペースの設置や、防犯カメラなどのセキュリティ面の配慮など、小さな子ども連れでも安心して利用できる施設とします。
- ・特に団体利用などで求められる駐車スペースは、公園全体の駐車場の活用を含めて検討します。

## 7 各ゾーンのイメージ

本施設のイメージとしては、以下のように想定していますが、今後の展示設計・展示制作で詳細を検討していくものとします。

エントランス：つどいを誘発するよう、明るく、開かれたエントランス



シアター：複数台のプロジェクトによる映像等により災害を自分事化



地震体験：過去の地震の再現、新たな地震の追加、更新も可能



冠水体験：歩きづらさ等の体験、災害時の外出の危険性を直感

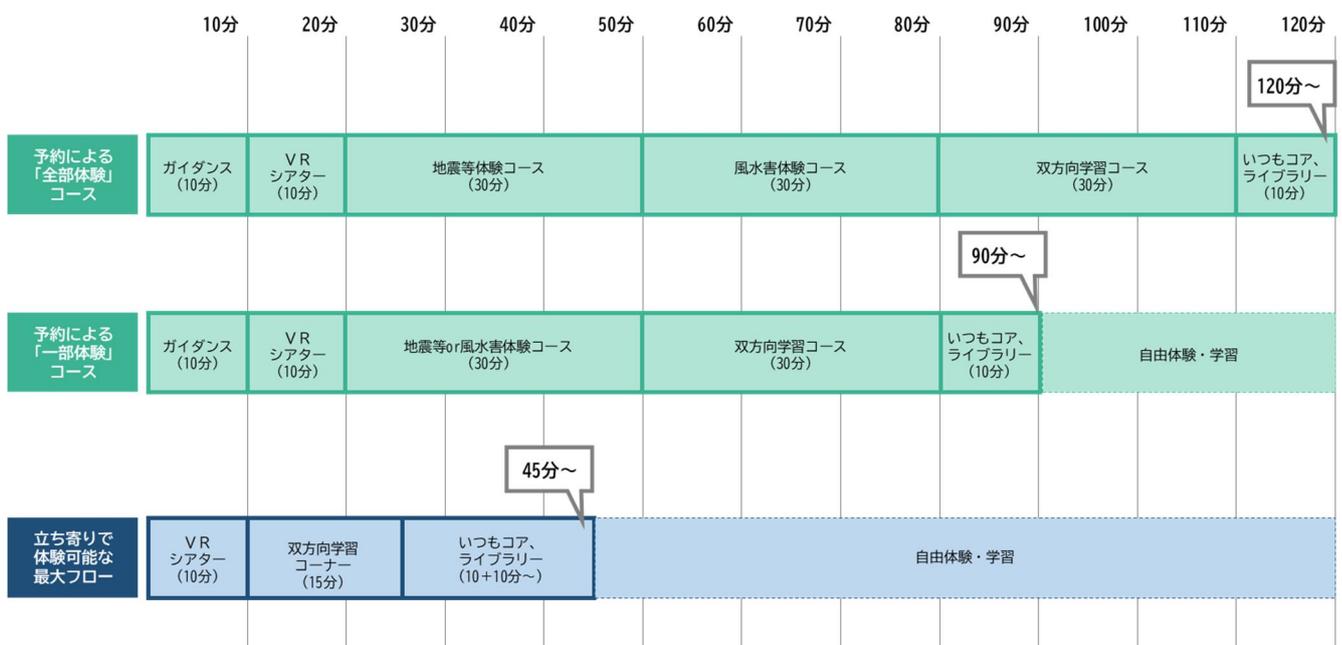


## 8 ターゲット種別毎の体験フロー及び滞在時間

### 8-1. 体験フローと滞在時間の考え方

本施設においては、予約団体の受入れに加え、立ち寄り利用者の体験フローも重要になります。予約団体については利用者ニーズへの対応も含め、複数のコース設定をしていくことが一般的であり、今後も運営計画の中で検討をしていくことが求められます。また実際に立ち寄りによる利用を促すためには、いつもコアなどの自由に使えるエリアにも、体験性ある展示コンテンツを整備するほか、ワークショップなどの事業計画も重要になるため、展示設計・運営計画の中で、更に検討していくものとします。

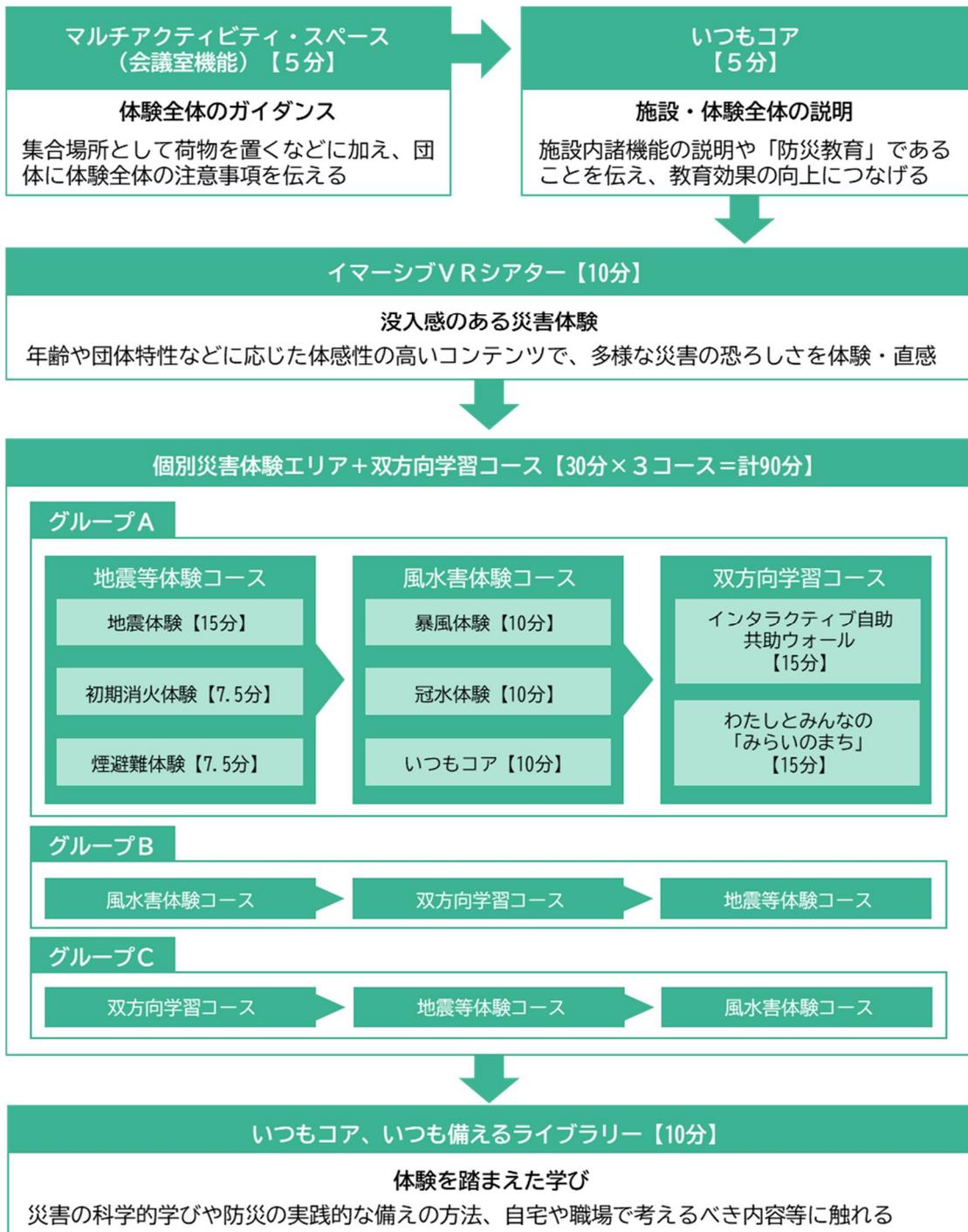
■体験時間イメージ（ワークショップなどソフト事業への参加除く）



8-2. 予約による団体利用者等の「全部体験」コースの考え方

本施設の利用者においては防災関連組織や学校団体、企業など事前予約した団体による利用がボリューム層として想定されます。本計画段階では全ての体験を行う体験コースと、一部のみを体験するコースで体験時間を設定するものとします。

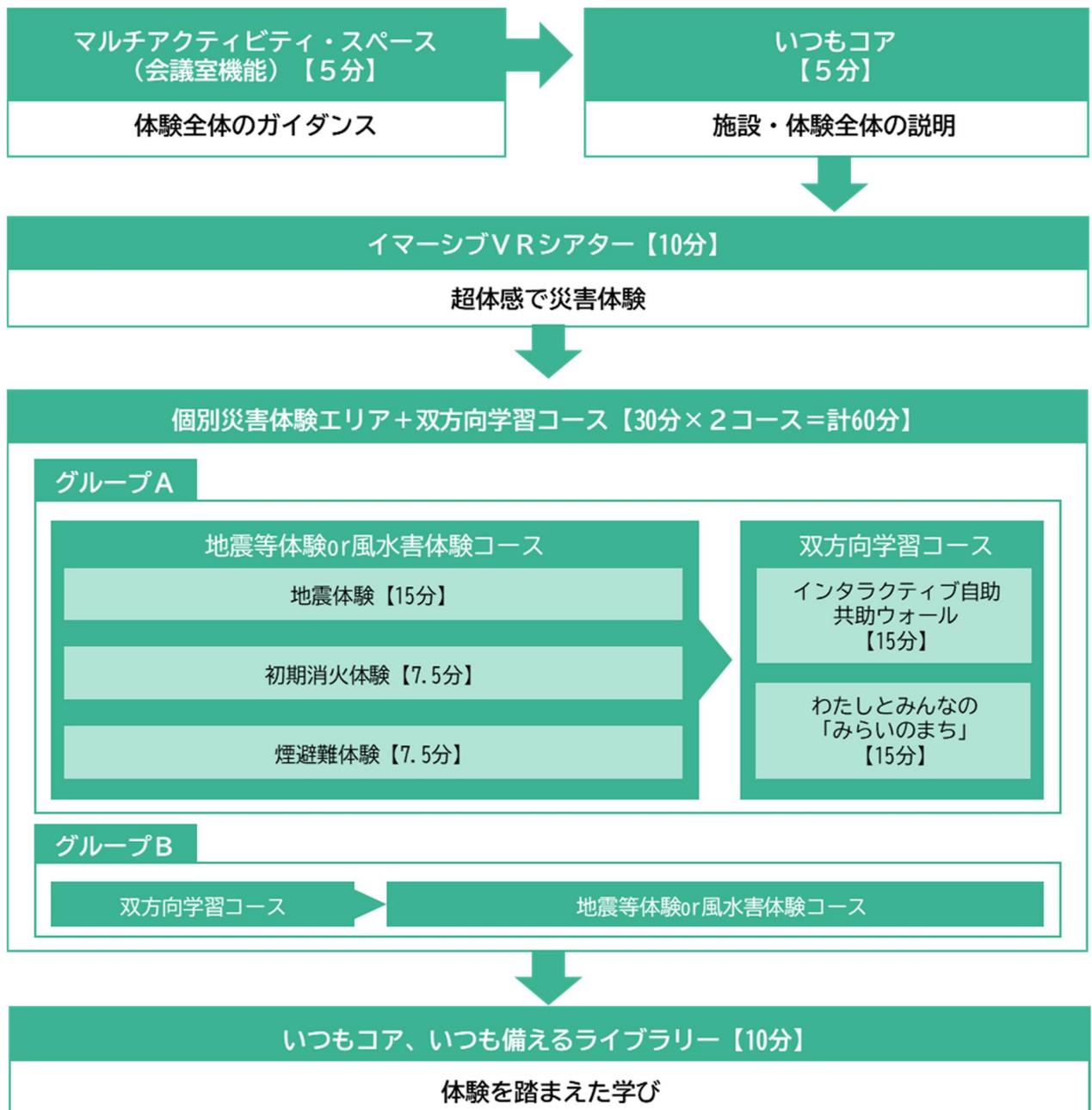
■「全部体験」コースの体験フローイメージ



8-3. 予約による団体利用者等の「一部体験」コースの考え方

予約利用のうち一部体験するコースについては、地震等体験コース又は風水害体験コースのいずれかを体験するものとして体験時間を設定するものとします。実際のコース設定については、体験時間の考え方に伴う動線計画などを含め、設計段階で更なる検討をするものとします。

■ 「一部体験」コースの体験フローイメージ

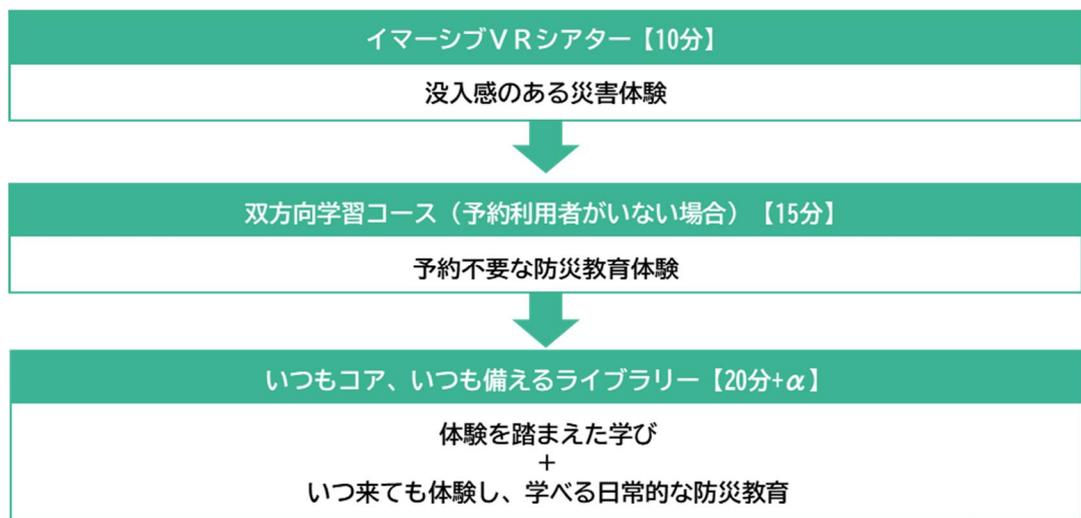


#### 8-4. 立ち寄り利用者等の体験の考え方

立ち寄り利用者については、団体予約の有無にもよりますが、シアターや双方向学習コースなど、介添えなしで体験に参加できるようにします。本施設においては、団体利用と同様に立ち寄り利用者を受け入れることで、日常的な防災教育の場を実現していきます。

団体予約が入っていない時の各種災害体験への受入れなどについては、運営計画策定の際に、運営に必要なスタッフなどとともに検討します。

##### ■立ち寄り利用者の体験フローイメージ



## 9 展示更新の在り方などの検討

本施設が未来のとちぎ人づくりに寄与するためには、時代と共に変化する防災の考え方や、災害メカニズム等の最新情報に対応して学びの情報を更新可能とし、学びの継続性を確保するような仕組みをつくることが求められます。

そのためにはデジタル技術を活用した簡易に更新が可能なデジタルサイネージのような機能に加え、パネルや紙媒体の差替えによるアナログな手法の導入が考えられます。さらに、デジタル技術を活用した展示については、更新が可能なスタッフが施設に常駐することで、常に最新の情報をタイムリーに提供できるよう運営体制や配置すべき職能を持ったスタッフについても検討することが必要です。

また、本施設での学びを持ち帰り、家庭等にて学びが深まるような工夫も、ハード、ソフトの両面から検討することが必要です。

## 10 総合防災拠点の立地を生かした学びの在り方

本施設が整備される県総合運動公園は「Ⅰ 1-3. 本施設の位置付け」に記載のとおり、総合防災拠点であり「備蓄機能」「救援物資集積拠点機能」「応援部隊活動拠点機能」「ヘリの離着陸機能」はすでに整備されています。

これらの機能が有する実際の防災設備に触れることも重要な学びとなり、また館外活動により公園利用者を本施設に誘引するような機会の創出にもつながるため、館外活動の実施についても検討していくこととします。

IV 施設計画

1 本施設の整備場所

本施設は、視認性が高く、幅広い利用者の呼び込みが可能な県総合運動公園の第2陸上競技場前に整備することとし、本計画段階での立地条件を記載します。条件については今後変更の可能性があります、必要に応じて設計段階で対応するものとします。

■各種条件など

敷地条件：

栃木県宇都宮市西川田4丁目1-1 栃木県総合運動公園内

交通計画（アクセス）：

電車

東武宇都宮線／西川田駅から徒歩 15 分

J R 宇都宮線／雀宮駅から徒歩 30 分、タクシー・車で 10 分

バス

J R 宇都宮駅から約 18～30 分

J R 雀宮駅から約 7～18 分

自家用車

東北自動車道／鹿沼 IC より車で 15 分

北関東自動車道／壬生 IC より車で 20 分

北関東自動車道／宇都宮上三川 IC から車で 15 分

法令上の制限：

建築基準法、都市計画区域内／市街化区域

第1種住居地域

建ぺい率—60%

容積率—200%

防火・準防火地区—指定なし

その他の地域地区—指定なし

栃木県建築基準条例

都市計画法、特別業務地区（栃木県総合運動公園スポーツ・レクリエーション地区）

都市公園法

栃木県都市公園条例

■整備候補地及び総合防災拠点の機能

【備蓄機能】

○備蓄倉庫

A カンセキスタジアムとちぎ倉庫

【救援物資の集積拠点機能】

○物資の集積場所

A カンセキスタジアムとちぎ倉庫  
(スペースが不足する場合は、スタジアム  
雨天走路や競技場内、北第1駐車場を使用)

○調整場所

B カンセキスタジアムとちぎ会議室

【応援部隊の活動拠点機能】

○宿営・野営場所

C 合宿所

D ヨウケイ武道館

E 中央広場

○駐車場

F 南第1駐車場

○調整場所

C 合宿所会議室

G 第2陸上競技場会議室

H 本球場会議室

【ハリの離着陸機能】

○ハリ緊急離着陸場

I サッカー・ラグビー場

【学習・教育機能】

○新防災教育施設

J 第2陸上競技場前



## 2 施設に求められる規模と機能と平面計画案の作成

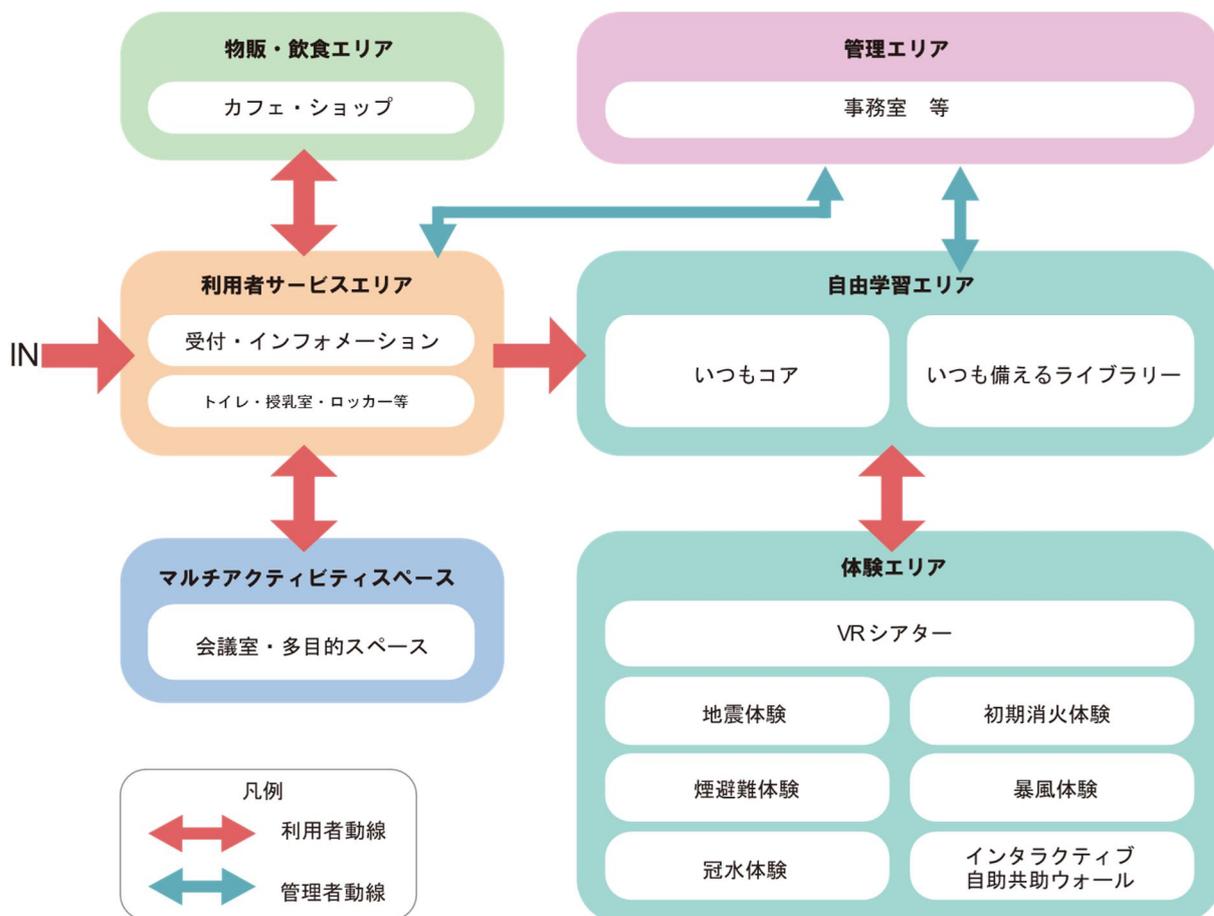
本施設ではまなび機能に加え、つどい機能やひろがり機能及びこれらを実現するために必要な管理機能などを以下のように設定し、RC造1F（想定）、延床面積の計として1,800㎡程度の施設規模とします。

また、それぞれの機能が有効に連携しあえるよう平面計画案を作成しましたが、具体的なレイアウトは建築設計・展示設計における平面計画の策定の中で行うものとし、今回は案としての作成になります。

■区分ごとに必要な規模案（想定であり、区分間の面積は全体の延床面積を上限として設計時に柔軟に対応）

区分	構成要素	面積
展示	シアター、各種災害体験（地震、初期消火、煙避難、風水害、冠水）、そのほか展示・体験機能、共用部展示 など	1,000㎡
管理	会議室、事務室、多目的スペース など	350㎡
その他	その他諸機能	450㎡
延床面積	計	1,800㎡

■平面計画案



### 3 ZEB (Net Zero Energy Building) も含めたライフサイクルコストの考え方

「とちぎ県庁ゼロカーボンプロジェクトアクションプラン」において、新たに整備する県有施設は、高効率空調機器の導入や、屋根・外壁等への十分な断熱材使用など、省エネルギー対策を徹底し、ZEBReady 相当以上の基準を満たすことを目指すとされています。

それを踏まえ、本施設の具体的な目標については建築基本計段階で検討するものとします。

また、とちぎ木材利用促進方針には「2階建て以下かつ延べ面積 3,000 m<sup>2</sup>以下の公共建築物については、木造化を原則」とありますが、本施設は起震装置、送風装置等を使用する体験展示施設であり耐久性がより重要であることから、建物の構造については、非木造とし、一部木質化に努めることとし、こちらについても具体的には建築基本設計段階で検討するものとします。

### 4 各種関係法令の整理

本施設の整備に当たり関係する法令としては 28 ページに記載しているものの他に、以下のものが考えられます。その他の法令など含め、建築基本計段階で改めて確認するものとします。

- ・ 航空法
- ・ 土壌汚染対策法
- ・ 景観法（宇都宮市景観条例）
- ・ バリアフリー法（宇都宮市やさしさをはぐくむ福祉のまちづくり条例）
- ・ 宇都宮市埋蔵文化財包蔵地—該当なし

## V 事業活動の方向性

### 1 連携事業の在り方など事業活動の方向性

本施設の機能では特につどい機能とひろがり機能においては、県内の様々な活動主体を中心とした外部組織と連携し、多様な活動を継続的に実施することが重要になります。以下のような事業活動を展開することが望ましいと考えられますが、今後も連携先や行う活動について検討を続けていきます。

#### ■事業活動のイメージ

##### 活動方向性① 連携による防災人材育成・防災人材のマッチング

防災士会や消防団、県内高等教育機関など防災に関するノウハウや技術を有した主体と連携を図り、多様な防災人材を育成します。

また、防災人材の登録・管理、マッチングを行うハブ機能化を目指します。

##### 【育成する防災人材のイメージ】

- ・ 自然災害の基礎知識や防災活動の実践的知識を習得した地域、職場のリーダーとなる人材
- ・ 地域の防災活動を支援する防災士のスキルアップ
- ・ 地域の未来を担う防災のリーダー役となる子どもたち
- ・ 災害時に求められる支援に対し、効率的な活動の展開をコーディネートする人材
- ・ 防災教育を行う教職員のスキルアップ

##### 活動方向性② 防災に係る主体の活動及び情報発信の場の提供

研修の実施や成果の発表、研究のフィールドワークを兼ねた事業の開催など、防災に係る主体の活動の場を提供し、発信機能を活用しオンラインで研究結果を発表するなど、情報発信の場も提供します。

##### 【活動・情報発信のイメージ】

- ・ 防災士会による講演会、講習会
- ・ 自主防災組織活動の事例発表
- ・ 県内大学の防災サークルによる活動報告
- ・ 県内高等教育機関による研究成果発表
- ・ 県内学校の生徒による防災関連の自主学習の成果発表

##### 活動方向性③ 防災に係る多様な主体同士の交流及び交流成果の波及

これまでにつながりがなかった防災に係る主体同士が、交流を深めることを通じて、多様な防災人材同士のマッチングや新たな防災教育のきっかけの創出等につながります。さらには交流で得られた防災に係る知識・技能・情報やネットワークを、地域で活用してもらい、地域における防災活動の活性化を促進します。

##### 【交流事業のイメージ】

- ・ 自主防災組織や企業等の防災の学びを行う団体と、防災士会、消防団、県内高等教育機関等の防災に関する知識や技能を有する組織の交流

- ・ 自主防災組織や企業、防災士、消防団等が一同に介した防災訓練
- ・ 交流で得られた防災ノウハウを、地域での防災活動で活用
- ・ 他自治体の防災教育施設等と、防災に係る効果的なイベントやワークショップ等の情報交換や共同企画

## 2 開館時間、休館日、入場料などの考え方

本施設の開館時間、休館日、入場料などについては、県内展示施設及び国内の防災教育施設の状況から方向性を検討していきます。また県総合運動公園の運営者とも連携し、公園利用者にとって使いやすいとともに、効果的で円滑な運営を可能なものとするようにします。

### ■栃木県内の展示施設における事例（令和5（2023）年11月時点）

施設名	開館時間	休館日※1	入場料※2、※3
栃木県立博物館	9時30分～17時	月曜日 (祝日の場合は翌日)	一般：260円、大高生：120円、 中学生以下無料
栃木県立美術館	9時30分～17時	月曜日 祝日の翌日	一般：260円、大高生：120円、 中学生以下無料
栃木県子ども総合科学館	9時30分～16時30分	月曜日 祝日の翌日	【展示室】一般：550円、 中学生以下：220円、3歳以下：無料 【プラネタリウム】一般：220円、 中学生以下：110円、3歳以下：無料
宇都宮美術館	9時30分～17時	月曜日 祝日の翌日	一般：310円、大高生：210円、 小中学生：100円
小山市立博物館	9時～17時	月曜日 第4金曜日	無料
佐野市郷土博物館	9時～17時	月曜日 毎月末日	無料
足利市立美術館	10時～18時	月曜日 (祝日の場合は翌日)	中学生以下無料
壬生町おもちゃ博物館	10時30分～15時30分	月・火曜日 (祝日の場合は翌日)	高校生以上：600円、 中学生以下：300円、3歳以下：無料
大谷資料館	【4月～11月】 9時～17時 【12月～3月】 9時30分～16時30分	【4月～11月】 なし 【12月～3月】 火曜日(祝日の場合は翌日)	一般：800円、小中学生：400円、 未就学児無料

※1：休館日における年未年始や臨時休館など特殊な内容は除く

※2：特別展など別途展覧会によって金額設定されている場合を除く

※3：団体料金を別途設定している場合があるが、本表からは除く

■都府県の防災教育施設における事例

施設名	開館時間	休館日※1	入場料
青森県防災教育センター	9時～16時	土・日曜日 祝日	無料
岩手県立総合防災センター	9時～17時	月曜日 (祝日の場合は翌日)	無料
秋田県防災学習館	9時～16時	なし	無料
山形県防災学習館	9時30分～16時30分	月曜日(祝日の場合は翌日) 祝日の翌日	無料
栃木県防災館	9時30分～16時30分	月曜日 (祝日の場合は翌日)	無料
埼玉県防災学習センター 「そな～え」	9時～16時30分	月曜日 (祝日の場合は翌日)	無料
千葉県西部防災センター	9時～16時30分	火曜日 (祝日の場合は翌日)	無料
本所防災館(東京消防庁)	9時～17時	水曜日 第3木曜日	無料
池袋防災館(東京消防庁)	9時～17時(毎週金曜日は20時15分まで)	第1・3火曜日 第3火曜日の翌日 (祝日の場合は翌日)	無料
立川防災館(東京消防庁)	9時～17時	木曜日 第3金曜日 (祝日の場合は翌日)	無料
神奈川県総合防災センター	9時～17時	月曜日(祝日の場合は翌日) 祝日の翌日	無料
四季防災館(富山県)	9時～17時	月曜日 (祝日の場合は翌日)	無料
山梨県立防災安全センター	9時～17時	第2・第4日曜日 祝日	無料
岐阜県広域防災センター	9時～16時30分	月・土曜日 日曜日 (毎月第3日曜日を除く)	無料
静岡県地震防災センター	9時～16時	月曜日	無料
愛知県防災教育センター	10時～16時	土・日曜日	無料
人と防災未来センター(兵庫県)	9時30分～17時30分	月曜日 (祝日の場合は翌日)	一般：600円、大学生：450円、 高校生以下：無料
三木総合防災公園(兵庫県)	9時～17時	火曜日 (祝日の場合は翌日)	無料
徳島県立防災センター	9時～17時	月曜日(祝日の場合は翌日) 第1火曜日 (祝日の場合は開館)	無料
香川県防災センター	9時～17時	月曜日 (祝日の場合は翌日)	無料

※1：休館日における年末年始や臨時休館など特殊な内容は除く

■県総合運動公園の施設供用時間など

運動施設（一部除く）

8時30分～18時（3月～9月）/17時（10月～2月）

カンセキスタジアムとちぎ

8時30分～21時

ユウケイ武道館

9時～21時

とちのきファミリーランド

9時30分～17時（3月～10月）

10時～16時30分（11月～2月）

駐車場

5時～21時30分

## VI 施設整備全体の概算事業費とスケジュール

- ・概算事業費：約26億円
- ・スケジュール：令和6～7 基本・実施設計  
令和8～10 展示・建築工事、外構・復旧工事
- ・供用開始：令和10（2028）年度中